

くじゅうタデ原周辺地域の地質と地形



タデ原湿原の全景

タデ原湿原の形成

タデ原湿原は、その周りを三俣山、黒岩山、泉水山とその山麓の扇状地、湯沢台などにより取り巻かれた湿原です。タデ原の西部と北部には少し高い丘がみられます。南側は林になっていますが、少しずつ高度を増していきます。

湿原内を流れる白水川の出口付近を、西方の泉水山方向から流れてきた岩屑なだれ堆積物がせき止めたことで、タデ原湿原が作られました。西部から北部一帯に分布する凝灰角礫岩からなる高まりがそれです。せき止められた時には長者原を中心に広い湖が形成されたと思われま。白水川の流路に沿う小さな崖では、6300年前に噴出したアカホヤ火山灰層下位の黒ボク土層におおわれる岩屑なだれ堆積物がみられます。タデ原の湖が形成されたのは、およそ1万年前から6300年前の間の前半の時期と考えられます。

タデ原湿原の地質と地形



白水川扇状地内にみられる湿地

タデ原湿原の上流は、白水川の扇状地です。それも火山体の崩壊で発生した土石流が作った扇状地です。この扇状地内には、自然観察路沿いに地下水がわき出る小さな湿地がたくさんあります。1953（昭和28）

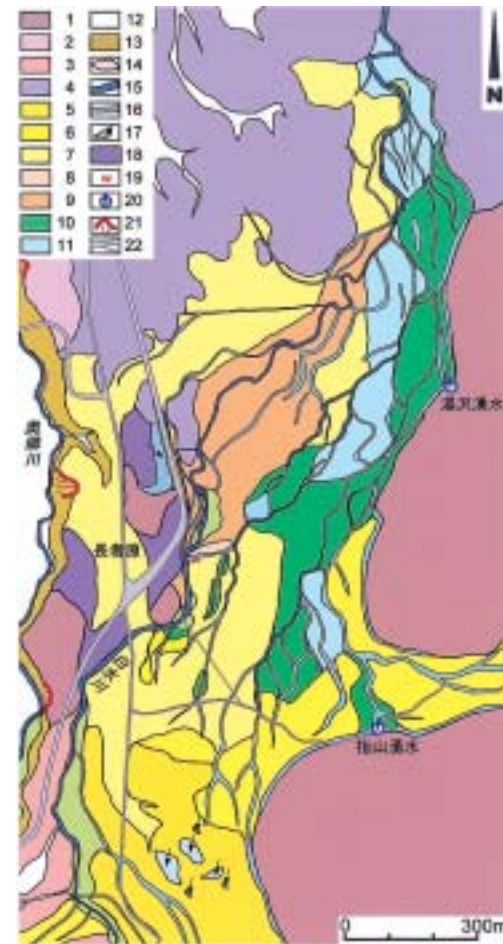


図. タデ原湿原周辺の地形分類

1 火山地 2 飯田火砕流堆積面 3 寒ノ地獄火砕流堆積面 4 松の台岩屑なだれ堆積面 5 土石流堆積面 6~7 扇状地面 8 段丘面 9 洪水堆積物(砂礫層)分布域 10 湿地面 11 洪水堆積物(砂・シルト層)分布域 12 谷底平野 13 急斜面 14 自然堤防 15 河道(深い谷) 16 河道(浅い谷) 17 凹地 18 改変地 19 風隙 20 湧水 21 崩壊地 22 道路

年の土石流の部分にはとくに顕著です。三俣山北方から流下する谷も扇状地を形成していて、両方の扇状地の接点にあたる所には指山湧水とよばれる湧水があります。

湿原の内部は白水川とその支流がつくる複雑な水系がみられます。深くえぐって流れている川もあるし、途中で消えて、またしばらくして顔を出す川もあります。湿原の大部分は扇状地性で、大きな円礫がたくさんみられます。しかし単なる扇状地ではない様子が、湿原内の河川沿いの崖によく表れています。それは砂礫層



白水川沿いにみられる泥炭層と砂礫層の互層



湯沢湧水

と砂礫層の間に何枚も泥炭層がはさまれていることです。これは湿地の形成と扇状地の形成が繰り返されたことを示しています。そのような地域は、湿原の中央部から西部、北部に広くみられます。一方、湿原の東部では細かい砂やシルトが地表にみられます。これは、湿原内で支流が緩やかに氾濫した様子を示しています。

東部の上湯沢台と下湯沢台の境界付近の麓からは湯沢湧水が湧いています。湯沢湧水付近から下流側の、とくに海拔995~1000mの地域は、軟弱な泥炭層からなる湿地で、湿原内に立ち入ることはできません。

貴重なタデ原湿原の地質と地形

タデ原湿原は、火山地域の湿原ですが、あまり湿原らしくない湿原でもあります。それは普段みることができる地域が、主として白水川の扇状地性の部分に限られているからです。それでも扇状地堆積物から地下水が湧き出し、その水が湿原を潤しています。ところが東部は著しい湿地をなし、ヨシ水沢地などが形成されています。全体として多様な地質・地形と、それと大変よく対応した植生分布により、貴重な湿原となっています。それでもタデ原湿原は埋積の過程にあり、自然状態では森林へと移行していく過渡期にあるようです。それが保存されているのは、野焼きにより木々の進入を防いでいること、白水川上流部の砂防堰堤による土石流防止など、多くの人々の努力による結果と思われま。



秋のタデ原湿原